

日本ピア・サポート学会 第20回記念 研究大会・第21回 総会 2 次案内



誰ひとり取り残さないピア・サポートーコロナ時代をつながって生きるー

日本におけるピア・サポート活動の理論的な研究及び学校や地域における実践活動の推進を通し、会員相互の連携や資質・技能の向上を図りながら学校や地域社会の健全な進展に寄与することを目的に発足した、本学会の研究大会が、今年で第20回を迎えます。

大会の開催方法につきまして、今年の5月頃は、少しずつコロナの状況も落ち着く兆しを見せ始めたことから、大会実行委員会では、対面参加を基本としながらもオンライン参加を組み合わせたハイブリッド開催とし、会員や参加者が様々な状況に応じて参加形態を選択できるようにいたしました。しかし、7月に入って、コロナ感染状況が再び増加傾向に転じているため、皆様が安心して第20回記念研究大会にご参加いただけるよう、今後の感染状況を注視しながら慎重に準備を進めて参ります。

つきましては、本日の2次案内は現時点でのご案内としてご御覧ください。どのような状況下でも、ご参加くださる皆様に実り多い第20回記念研究大会となるよう努めて参りますので、どうかご理解とご協力、そして、多くの皆様からご参加を賜りますようご案内いたします。

第20回記念研究大会実行委員会一同

記

期日：2022年10月9日(日)～10月10日(月・祝)

主催：日本ピア・サポート学会

共催：立命館大学大学院教職研究科

後援：日本学校教育相談学会

会場：立命館大学朱雀キャンパス(オンラインでの参加も可能です。)

※会場では、感染症対策を厳重に施して実施いたします。

初秋の古都、京都で会いましょう

コロナ禍のため延期していた学会創設20周年記念大会を、立命館大学朱雀キャンパスで開催いたします。

記念講演は、27年前に起きた阪神・淡路大震災で自ら被災されるなか、音楽科教員として子どもたちを指導してこられた臼井真先生をお迎えして行います。先生ご自身が創作された「しあわせ運べるように」は、心に深く刻まれる歌として、被災地を問わず、広く海外でも翻訳され歌い継がれています。同歌は、昨年、神戸市の市歌として制定されました。

交流会では、「ワールド・カフェ」を取り入れた企画を準備しています。実践交流の場として自由な雰囲気でご参加ください。「ワールド・カフェ」導入の極意も伝達します。お楽しみください。

記念シンポジウムでは、大会テーマ「誰ひとり取り残さないピア・サポート」を中心テーマとして、各分野でご活躍中のシンポジストの方々から、ご自身の職域での実践、体験、研究等を語っていただき、ピア・サポートの展望等についてみなさんで議論したいと考えております。

なお、記念シンポジウム開催前に、今大会から創設された「第1回学会賞」授与式を執り行う予定です。

初秋の古都、京都でお会いしましょう。

日本ピア・サポート学会 会長 池 島 徳 大

1. プログラム

10月9日(日)

9:00～	10:00～12:00	12:00～13:30	12:30～13:00	13:40～17:20	17:30～19:00
受付	記念講演	昼食	総会 (会員のみ)	研究・実践発表、分科会	交流会 ワールド・カフェ

10月10日(月・祝)

9:00～	9:30～9:45	9:45～12:25	12:25～12:30
受付	学会賞授与式	記念シンポジウム	閉会行事

1日目 10月9日(日)

□ 受付【9:00～】

□ 記念講演【10:00～12:00】

テーマ： しあわせ運べるようにーコロナ時代と震災を生きる歌ー

あの悪夢のような阪神・淡路大震災から27年。絶望感のなかで、子どもたちに未来を託し創作した「しあわせ運べるように」は昨年の1月17日に神戸市の市歌として制定されました。この歌の誕生秘話、そして音楽科教員にとって受難の時となったコロナ時代。歌えない合唱団の練習や授業の様子、未来を担う子どもたちへの新曲「やさしさ つむいで」。

Withコロナの音楽教育についてお話しします。

- ・感動して宝石の涙を流せる子どもたちに
- ・「しあわせ運べるように」誕生秘話
- ・遺族の方々の想い
- ・コロナ禍での合唱指導
- ・コロナ後の未来に「やさしさ つむいで」

講師 臼井 真(うすい まこと)



プロフィール 1960年神戸市生まれ。震災時は神戸市立吾妻小学校(97年閉校)勤務。神戸市立の8つの小学校で38年間勤め、2021年3月末で退職。現在は、神戸親和女子大学児童教育学科准教授。「しあわせ運べるように」は、神戸ルミナリエでも歌い継がれ、神戸から新潟、東北、熊本へ……。そして英語・中国語・フランス語・ペルシャ語・イタリア語・カンボジア語・トルコ語・スペイン語・エスペラント語・ミャンマー語・ネパール語・韓国語にも訳され、海外でも広く歌われている。小学生のための作詞・作曲オリジナル曲は400曲以上。平成17年度兵庫県教職員組合教育文化奨励賞受賞。平成18年度国際ソロプチミスト神戸東第一回グローバル賞受賞。平成22年度神戸市教育委員会教育実践奨励賞受賞、平成23年文部科学大臣優秀教員表彰。平成26年神戸新聞「平和賞」受賞、令和2年国際ソロプチミスト神戸東「千嘉代子賞」クラブ賞受賞。令和3年兵庫県功労者表彰文化功労賞、JASRA第8回文化賞受賞
公式サイト「しあわせ運べるように」<http://www.shiawasehakoberuyouni.jp>

□ 昼休憩【12:00～13:30】

□ 総会【12:30～13:00】 対象：日本ピア・サポート学会会員

□ 研究・実践発表、分科会 【13:40～17:20】

発表20分、質疑応答20分、講評 5 分

発表者については後日学会ホームページにてご案内いたします。

□ 交流会 ワールド・カフェ 【17:30～19:00】

ファシリテーター 音山若穂（群馬大学教育学研究科（教職大学院））

第11回研究大会のワークショップで体験いただいた「ワールド・カフェ」により、「交流会」を企画・運営いたします。

今回は、コロナ禍におけるワールド・カフェで対話を楽しみましょう。

参加された方同士が対話を通して、ピア・サポート活動について再考し、大会後のご自身のピア・サポート活動、10日(月)のシンポジウムのテーマにつなげましょう。

2日目 10月10日（月・祝）

□ 受付 【9:00～】

□ 学会賞授与式 【9:30～9:45】

□ 記念シンポジウム 【9:45～12:25】

テーマ：誰ひとり取り残さないピア・サポートーコロナ時代をつながって生きるー
シンポジスト

相川章子（聖学院大学）、茨木泰丈（こども教育支援財団）、松下健（北陸学園大学）

指定討論者 バーンズ亀山静子（NY州スクールサイコロジスト）リモート

コーディネーター 栗原慎二（広島大学大学院）

<企画趣旨>

「誰ひとり取り残さない」社会を実現するには、専門家による支援だけではなく、ピアによる支援が必須です。その実践に取り組むことと実践者を増やすことは、この学会に課せられた使命です。3人のシンポジストは、精神障害のある方々、不登校の子どもたち、高校生・大学生を対象にピア・サポート実践に取り組み、それを論文や書籍や指導者養成に還元する取り組みをされている先生方です。また、広い視点と世界の動向から、本学会の名誉会員であるバーンズ亀山静子先生に指定討論をお願いしています。「誰ひとり取り残さないピア・サポート」について、ともに考えましょう。

□ 閉会行事 【12:25～12:30】

2. 参加ポイント

ピア・トレーナー及びピア・コーディネーターの資格更新ポイントに必要なポイントが付与されます。 研究大会 2 日間参加 2 ポイント

3年ぶりの対面開催 ―京都で再会を―

第20回記念研究大会・第21回総会は、この間のコロナ感染拡大の状況から、常任理事会より対面とオンラインの同時開催が可能な会場をとの依頼を受けて、立命館大学朱雀キャンパスでの開催となりました。

現地では、対面でご参加いただくことを基本として準備をしていますが、オンラインでの参加も可能です。Peatixでの申し込み時に、対面かZoomか参加方法を選択してください。申し込み後にコロナ感染状況等を踏まえ参加方法の変更を希望される場合は、現地の実行委員会（担当：細川 hosokawa@spc.ritsumeit.ac.jp）にご相談ください。

本大会は、第20回記念研究大会として常任理事会の主管で行われますが、参加申し込み受け付け、当日の運営体制などは、現地実行委員会が担当しています。立命館大学大学院教職研究科、人間科学研究科の院生、修了生の協力を得ながら、現地実行委員会を立ち上げ、取り組みを進めています。

3年目を迎えたコロナ時代のなかで感染状況を注視しつつも、対面での交流が進み、実践・研究に関する報告を受けて議論が深まることを願っています。対面参加の皆様もオンライン参加の皆様も、京都の地で再会しましょう。

第20回記念研究大会・第21回総会（京都大会）

現地実行委員会代表 春日井 敏 之

立命館大学朱雀キャンパス アクセス図（立命館大学ホームページより）



★ JR・地下鉄 京都駅から

- ・JRにて約7分、「二条駅」下車、徒歩約2分
- ・京都市営烏丸線にて約5分、「烏丸御池駅」で京都市営東西線に乗り換え約4分、「二条駅」下車、徒歩2分

★阪急大阪梅田駅から

- ・阪急にて約40分、「大宮駅」下車、徒歩約10分

本研究大会の参加申込と大会参加費決済は

Peatix になります！

申し込み期間 2022年7月4日(月)～9月30日(金)

初めての試みですので、新システムの流れを別紙でお知らせいたします。ご参照ください。

	発表(20分) 質疑(20分) 指導助言(5分)	交代 10分	発表(20分) 質疑(20分) 指導助言(5分)	休憩 20分	発表(20分) 質疑(20分) 指導助言(5分)	交代 10分	発表(20分) 質疑(20分) 指導助言(5分)
座長/司会	①13:40～14:25		②14:35～15:20		③15:40～16:25		④16:35～17:20
A 春日井 敏之 (研究調査委員長) 司会者 (理事)			児童の学校適応感に対する教師の認識— 学校適応感尺度(ASSESS)を用いた 検討— 山田 洋平(福岡教育大学) 中村 通華(株式会社さなる)		小学生の友人同士の対立場面における 介入行動意図と学校適応感の関連 松山 康成 (香里ヌヴェール学院大学) 真田 穰人 (梅光学院大学)		中央大学におけるピア・サポート・ サークルの実験的取り組み —「当事者であり支援者でもある」 という二重構造に着目して— 高口 僚太郎・山科 満・菊池 創(中央大 学), 番園 寛也(国際基督教大学)
B 栗原 慎二 (研究紀要委員長) 司会者 (理事)	ピア・サポート活動の立ち上げに 関わった大学生の成長に関する研究 川崎 隆 (別府大学)		絵本と音楽のコラボレーションイベントの 効果研究Ⅱ —イベント参加者の記述からの考察— 中野 修(金沢医科大学), 増田 梨花(立命館大学大学院)		大学ピア・サポート活動における 学生ピア・サポーターのモチベーションに 関する探索的研究 藤岡 大輔 (北海道大学学生相談総合センター 学生相談室)		大学生における協同的な学びの 促進方略—Learning Through Discussionによる学びのなかで— 真田 穰人 (梅光学院大学)
C 池 雅之 (研究調査委員) 司会者 (理事)			ふざろいな仲間たちへの ピアの仲間による ピアサポートプログラム 吉田 冷子・霍田 丸子・木村 ミチ子 (ピア町田の会)		コロナ禍での大学新入生に向けた PSPの試み —新入生交歓会を活用した サポート体制づくり— 山崎 茜(広島大学教職大学院) 栗原 慎二(広島大学大学院)		教育分野における近年の ピア・サポート研究の動向—学校の中で のみ助け合うことを目指すのか?— 松下 健(北陸学院大学), 山口 権治(浜松 市教育総合支援センター), 中村 泉(浜北天竜 災害ボランティアコーディネーター連絡会), 平尾 賢 弘(静岡県西部ボランティア教育研究会)
D 西山 久子 (国際交流委員長) 司会者 (理事)	長期に渡る中学校での PS活動の内容と変遷—スクール カウンセラーからの視点より— 小松 宏暢 (高知県スクールカウンセラー) 池 雅之(高知工科大学)		ピア・サポーター資格が研修参加動機に 与える影響—高等学校における13年間 の研修を通して— 桑原 博美 (大阪府立東百舌鳥高等学校)		私立A高校におけるピア・サポート・ トレーニングの取り組み -上級生から下級生への オンラインアイスブレイクの実践- 竹田 美保・陶山 大輔・小袋 伸枝 (学校法人明星学園浦和学院高等学校)		養護教諭からみた教師のメンタルヘルス 支援の在り方に関する一考察—養護教諭 へのアンケート調査の分析から— 服部 紀代 (立命館大学大学院人間科学研究科 博士後期課程3年)
E 中林 浩子 (研修委員長) 司会者 (理事)	特別支援学校高等部の生徒に対する ピア・サポート活動の効果 —発達障害, 特にASD傾向のある生徒に対して— 藤井 謙介 (兵庫県キャンパスカウンセラー)		医療系大学での障害学生支援に向けた ピア・サポーター養成 —「心のバリアフリー」を目指して— 岩村 純子・松本 珠美・村瀬 美香・ 原口 奈美・嶋田 かをる・ (熊本保健科学大学)		児童養護施設における絵本の読み合わせ を活用したピア・サポートに関する研究 —職員を対象にした生理指標と 感情表出の視点からの一考察— 増田 梨花(立命館大学大学院), 鄭 平陽 (立命館大学大学院人間科学研究科博士 課程後期)・松下 健(北陸学院大学)		児童養護施設における被虐待児童を 対象にした心理支援—絵本の読み合わせ を活用したアプローチによる「支えるこ と」から「支え合うこと」への変容 鄭 平陽・服部 紀代・梅原 聡(立命館大学 大学院人間科学研究科博士課程後期), 増田 梨花(立命館大学大学院)

発表中の異動はご遠慮ください。

発表中の異動はご遠慮ください。